

2024年度 一般社団法人日本臨床化学会 第2回理事会（拡大理事会）議事録

日時：2024年8月30日（金）18:00-19:40

会場：ライトキューブ宇都宮 第6会場（1階小会議室 107+108）

議長：三井田孝（理事長）

出席者（会場）：三井田孝（理事長）

石井直仁、大川龍之介、菅野光俊、山田俊幸、吉田 博（以上 常務理事）

川崎健治、惠 淑萍、小谷和彦、酒瀬川信一、中川沙織、濱田悦子、堀田多恵子

山口哲史（以上 理事）廣渡祐史（編集委員会委員長）、高妻 卓司（企業懇話会）

加藤公則、山口浩明、吉田 繁（以上 支部長）

末廣 寛、高野須広道（支部長代理）

出席者（ZOOM）：河野麻理、坂本秀生、城野博史、橋口照人、山下計太（以上 理事）

前川真人、三浦雅一（以上 監事）

齋藤邦明（第65回年次学術集会集会長）、伊藤弘康（第65回年次学術集会副集会長）

上田一仁、矢野彰三（以上 支部長）

欠席者：仁井見英樹（理事）、梅北邦彦、大倉宏之（支部長）

理事出席者数 19名（全理事数 20名）、全出席者数 32名

議 題

1. 開会の辞（三井田 理事長）

・理事総数 20名中 19名、全 32名の出席があり理事会は成立した。

2. 第64回年次学術集会長挨拶（山田 年次学術集会長）

年次学術集会長からご挨拶、台風についての対応について報告があった。

3. 議事録確認者の指名（三井田 理事長）

惠理事、中川理事が指名された。

4. 報告事項

1) 庶務報告（吉田 庶務担当理事）

①学会会員現状報告

- ・2024年7月31日時点で、正会員 1,521名、正会員（30歳未満）148名、評議員 165名となっており、順調に推移している。
- ・評議員と正会員（30歳未満）が、ほぼ同数となってきている。
- ・名誉会員が2名逝去され、学会誌でも追悼文を掲載した。

②事業報告・事業計画

- ・2024年6月21日に開催した理事会以降、各種委員会などを開催し、学会誌は順調に発行している。本理事会以降も会議、学会誌発行など予定している。
- ・役員の実選が実施された。6月25日に投票に関する案内がなされ、7月3日～17日で投票、7月18日開票された。

2) 2024年度会計中間報告（大川 担当理事）

- ・2024年4月1日～7月31日の入力分までの中間報告がなされた。
- ・収入の部については、会費収入約1,940万円、事業収入が約43万円、雑収入が約20万円で合計は約2,000万円となっている。
- ・支出の部については、事業費約540万円であった。勧告法総集編関連費については2012年度版の増刷があり約64万円の支出があった。管理費は約330万円で、現時点での支出の合計は約870万円となっている。
- ・年次学術集会について、今回台風の影響があった中、オンデマンドでの対応を追加することになった。これにかかる費用については、必要であれば、学会にてサポートする予定。

3) 常置委員会報告

①編集委員会報告（城野 編集担当理事）

- ・学会誌は、52巻4号～53巻3号までを発刊した。
- ・Annals of Clinical Biochemistry (ACB) のインパクトファクターは2.1であった。日本の投稿数は減少傾向にある。
- ・8月30日午前中に開催した座談会では、活発な議論が交わされた。
- ・トピックスなどのフリーアクセス化、Student Award 受賞者にショートレビュー形式での

原稿依頼、シニアの会員への原稿依頼などについて、検討を進めている。

②国際交流委員会報告（坂本 国際交流担当理事・委員長）

- ・ IFCC eNews に 2022 年度学会賞受賞者の研究紹介を掲載した。
- ・ Medical Laboratory Professionals Global Week2024 に、石嶺先生に作成していただいた動画を提出した。
- ・ APFCB News の 2024 年第 1 号に第 63 回年会報告、第 2 号に学生シンポジウム受賞者の受賞演題の紹介と感想を寄稿した。
- ・ Adaptive Learning for Laboratory Medicine 多言語翻訳家プロジェクトに参加し、20 名程度の方に協力をいただき、現在 10 名程度の方に翻訳をしていただいた。まだ 120 近くあるので、協力をお願いしたい。

③教育委員会報告（濱田 教育担当理事・委員長）

- ・ 2024 年度認定臨床化学者は、新規 14 名、更新は 12 名全員が承認となった。更新されていない方が増加傾向のため問題視している。
- ・ 2024 年度精度保証管理者制度の認定試験は、2024 年 12 月 22 日（日）に開催予定。更新申請は 2020 年度取得者が対象で、申請期間は 2024 年 10 月 15 日～2024 年 11 月 11 日。
- ・ 更新用セミナーを年次学術集会のセッションで実施、台風の影響で来場ができなかった方は、オンデマンドでの対応も検討している。浜松ラボハーモ・カンファレンス 2024 でも単位取得の研修を実施。

④学術連絡委員会報告（山田 学術連絡委員会委員長）

- ・ 各専門委員会のプロジェクトが進んでいる。
- ・ APFCB から Invitation to Contribute to Upcoming Webinar Series の検討依頼があり、利用できることがあれば前向きに検討する。
- ・ 2025 年度日本臨床検査医学会の共催シンポジウムの担当は、止血・血栓検査委員会に決定した。
- ・ 糖尿病関連指標専門委員会委員長の交代があった。

⑤集会・広報委員会報告（吉田 集会・広報委員会委員長）

- ・ 専門委員会のページの更新が滞っている。第 64 回年次学術集会では、専門委員会のプロジェクト報告やセッションがあるので、内容については是非情報発信をしていただきたい。
- ・ ピットフォール研究専門委員会のページは窓口関連含め充実してきており、マニュアル作成も随時行い、充実した内容になっている。クオリティマネジメント専門委員会の統計検査医支援ソフトダウンロードは本会以外の先生からも好評であり、更新も随時行われている。
- ・ 編集委員会では、学会ホームページへのアクセス数を増やすための対策を検討しているため、集会・広報委員会と連携しながら進めていきたい。
- ・ バナー広告は、現在 4 社のみ公開している。

⑥学会賞選考委員会報告（恵 学術担当理事）

- ・ 2025 年度の学会賞募集要項、Young Investigator Award (YIA) 概要、JSCC Student Award 概要等について、委員会で検討し、下記のとおり一部修正した。

YIA：過去に YIA または学会賞奨励賞の受賞歴がないこと、など

JSCC Student Award：応募資格として、教員、学会賞奨励賞受賞者を除外する、など

⑦法務委員会報告（酒瀬川 法務担当理事・委員長）

- ・ 2023 年度に関する利益相反アンケート調査を行った。回答率は 100%であった。
- ・ 利益相反調査の設問について見直しを検討中である。

⑧あり方検討委員会報告（大川 あり方検討委員会委員長）

- ・ 本会 65 歳以上の会員ならびに 60 歳から 64 歳の会員を対象として実施したアンケート調査の回答について委員会で検討した。
- ・ 回答率は高くないが、多くの意見をいただいた。
- ・ 今回の対象者以外、全会員に向けてもアンケートを実施するよう調査内容について検討中。

⑨若手育成委員会報告（小谷 若手育成委員会委員長）

- ・ 若手会員向け研究相談会を年次学術集会で実施予定。30 名ほど参加の予定。
- ・ 今後は勉強会から研究会へとシフトしていく予定。
- ・ 論文の書き方など、WEB 開催を検討中。

4) 支部報告

- ・ 下記 9 つの支部から支部総会・支部例会などの報告がなされた。
 - ①北海道支部（吉田 支部長）、②東北支部（山口 支部長）、③関東支部（小谷 支部長）
 - ④甲信越支部（加藤 支部長）、⑤東海・北陸支部（吉田 庶務担当理事）、
 - ⑥近畿支部（上田 支部長）、⑦中国支部（末廣 支部長代理）、
 - ⑧四国支部（高野須 支部長代理）、⑨九州支部（吉田 庶務担当理事）

5) 企業懇話会報告（高妻 企業懇話会世話人）

- ・ 年に 2 回懇話会を実施している。約半数の企業が参加をしている。議題は、企業シンポジウムについてで、今年は創薬と医療の観点から「認知の最先端事業を通じた共生社会への貢献」となっている。
- ・ 学会の活性化について検討もしており、学会と企業で活性化、産業系の会員をどうしたら増やせるのかなど議題に挙げて話をしている。

6) 第 63 回年次学術集会報告（吉田 第 63 回年次学術集会長）

- ・ 第 63 回年次学術集会について吉田集会長から会計に関する報告があった。
- ・ 現地でのみの開催とした。

7) 第 65 回年次学術集会報告（齋藤 第 65 回年次学術集会長）

- ・ 2025 年 11 月 7 日（金）～11 月 9 日（日）に、ウインクあいち（愛知県名古屋市）で開催する。テーマは『『知の創造と活用』で臨床化学の未来を切り拓く』とした。

8) その他

①日本薬系学会連合について（城野 理事）

- ・ 5 月 11 日に記念フォーラムがハイブリットにて開催された。
- ・ 7 月 23 日に臨時総会が開催された。

5. 審議事項

1) 理事・監事選出について（菅野 選挙管理委員会委員長）

- ・ 投票率は全体で 78.2%だったが、100%を目指すよう監事よりご指摘があり、次回以降検討する予定。
- ・ 結果は以下の通りで、承認された。
 - 医師：松下一之、吉田博
 - 教育・研究職：恵 淑萍、中川 沙織
 - 医療職：城野 博史、堀田 多恵子
 - 産業系：中沢 隆史
 - 監事：齋藤 邦明（敬称略）

2) 特別名誉会員・名誉会員・有功会員（候補者）について（三井田 理事長）

- ・ 学会宛に多額の寄付を頂いたことにより、須藤佳代子先生を特別名誉会員に推薦したいという提案があり、承認された。
- ・ 名誉会員・有効会員についても下記の推薦があり、承認された。
 - 名誉会長：前川 真人
 - 名誉会員：大久保 滋夫、諏訪部 章、濱田 悦子、山田 俊幸
 - 有功会員：市原 文雄、今井 恭子、木村 聡、木村 秀樹、小柴 賢洋、佐藤 正一、末岡 榮三朗、メ谷 直人、白井 秀明、那谷 耕司、前田 士郎、松下 誠、三宅 一徳、山中 茂雄

（敬称略）

3) 事務局移転に伴う定款変更について（三井田 理事長）

- ・ 事務局移転に伴い、定款の表記を変更する必要がある。登記に関わる部分になるため、事務局で対応を進める。定款の表記変更について承認された。

4) 第 67 回年次学術集会長について（吉田 集会・広報委員会委員長）

- ・ 集会・広報委員会で検討し、第 67 回年次学術集会長として、近畿支部の上田一仁先生（関西医療大学）を推薦する旨報告があり、承認された

5) IGF-1 SD スコアの有用性について（堀田 理事）

- ・ IGF-1 SD スコアの併記する件について、基準範囲共用化委員会で検証し、その報告があった。本会としては賛同してもよいと思われるとの回答があった。基準範囲共用化委員会委員長の堀田理事は日本臨床検査医学会でも同様の委員会に所属しており、日本臨床検査医学会にも同様の回答を行ったとの報告があった。そのため、本件について、本会と日本臨床検査医学会

は同じ見解であるとし、日本内分泌学会へ回答することについて常務理事会で検討し、承認された。

6. 閉会の辞（三井田 理事長）

- ・ 理事長より挨拶があり、理事会は閉会した。

以 上

2024 年 9 月 26 日

一般社団法人日本臨床化学会拡大理事会

議長

三井田 孝



議事録確認者

惠淑萍



議事録確認者

中川 沙織

